

# 活動成果をタイムリーにお届け：トピックス展示

本館3F「ナチュラリストの幻郷」コーナーの一角に、研究員の日ごろの調査や研究等の活動成果や、新しく博物館資料として受け入れた標本やコレクション等をいち早くご紹介するための展示スペースを設けています。展示ケース1台とパネル1枚で1つのトピックを紹介するため、トピックス展示と呼んでいます。会期は2カ月ほどで、年に5回程度展示を入れ替えています。通常、博物館の常設展示や企画展示は、テーマに沿って幾つかのトピックを紹介することで、ストーリー性をもたせて見応えのある展示になるように仕上げますが、準備のための時間やコストがかかるため、内容を一部またはそっくり入れ替えることはなかなかできません。そのため「いつ見に来てでも展示が一緒」という状態は避けることが難しいのですが、トピックス展示は少しでも博物館の今の動きを表を見せたいということから始まった展示です。

2014年には淡路島で発見されたウミガメの化石や、都市で見かける二種類のカラス、ハシブトガラスとハシボソガラスのはく製展示、研究員が新種記載したテリハナツノタムラソウというシソ科植物のタイプ標本と原記載論文、ハマツメクサの分布拡大についての展示を行いました。2015年は新しく博物館に加わった研究員たちによって、これまでになかったテーマの展示が増えました。博物館がある三田市でも発見され



淡路島で見つかったウミガメの化石



ハシブトガラス（奥）とハシボソガラス（手前）



シソ科の新種テリハナツノタムラソウ



三田市産のセアカゴケグモ



兵庫県の吸血マダニ類

しました。いずれも日ごろの研究員の研究や普及啓発活動の成果と結びついています。

トピックス展示は、今ひとつはくで働いている研究員の活動成果を市民に示す場として重要な役割を果たしています。これからのトピックス展示にもご注目ください。

ているセアカゴケグモの標本や巣の展示、兵庫県に住む吸血マダニ類の標本展示です。セアカゴケグモもマダニ類の展示も、人間とのかわりが深いことから高い関心呼びました。

その他、みんなでつくった・育てたビオトープ（模型）展、小さな化石の拡大模型を展示



トピックス展示プロジェクト

代表者：生涯学習推進室 展示マネージャー

分担者：全研究員

財源：県費